科目No.: 24-102　　講義名: **リハビリテーション医療と関連分野の最前線**

開講日	2024年春期 水曜日　18:30-20:00	講義場所	**医学部研究棟11階　講義室A**
コースディレクター	名古屋市立大学大学院医学研究科　リハビリテーション医学分野　教授　岡本秀貴		

科目概要および期待される成果	【概要】リハビリテーション医療の特徴は、疾病によって生じた機能あるいは能力の障害を見極め、これに対してリハビリテーション科医を中心に、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護士など多様な専門スタッフが協働して障がい者(児)個々の問題にアプローチする事にある。したがって、疾病自体の治療を目的とする関連分野との密な連携が重要である。 本講座では、リハビリテーション医療の主たる関連分野である中枢神経疾患、神経筋疾患、関節リウマチ、骨関節疾患やスポーツ障害などに関する最新の知見についてわかりやすく解説していただく。 【期待される成果】中枢・末梢神経疾患や運動器疾患あるいはスポーツ障害などを基盤とした機能・能力障害について理解を深めるとともに、リハビリテーション医療あるいは関連分野における最新の診断・治療について学んでいただく。 こうした学習を通じて、医療関係者が国民に対して質の高い医療・福祉サービスを提供し得る。
目標とする資格	

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
L-1	1	先進リハビリテーション技術総論	近年リハビリテーション分野では様々な新規手法によるリハビリテーション技術が台頭してきている。本講義では後の講義にて議題となりえる新規の技術に関する総論を述べる。	4月10日	井田曌童(名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院リハビリテーション科　助教)
L-2	2	膝スポーツ疾患治療の最前線	膝関節のスポーツ疾患(前十字靭帯損傷・半月板損傷)について、一般的な治療・リハビリ等について講義を行います	4月17日	福島裕晃(名古屋市立大学大学院医学研究科整形外科学分野　病院助教)
L-3	3	股関節の構造と痛みの出現するメカニズムと治療	股関節の痛みは様々な病気や怪我で起こります。本講座では、①股関節の構造②痛みの出現するメカニズム③リハビリテーション ④最新の手術などについてお話します。	4月24日	黒柳 元(名古屋市立大学大学院　医学研究科リハビリテーション医学分野　講師)
L-4	4	心臓リハビリテーションの現状と課題	虚血性心疾患への対応として始まった心臓リハビリテーションですが、今日では心不全患者が増加しておりその対応が急務となっています。心不全へのリハビリテーションの現状や課題について考えたいと思います。	5月8日	山下 豊(名古屋市立大学病院　リハビリテーション部　理学療法士)
L-5	5	膝関節疾患治療の最前線	変形性膝関節症は、本邦の40歳以上では2500万人が抱えていると言われています。本講義では変形性膝関節症に対する保存療法から手術療法まで紹介します。	5月15日	阿部健作(名古屋市立大学大学院医学研究科整形外科学分野　助教)
L-6	6	骨軟部腫瘍治療の最前線	骨軟部腫瘍は骨や筋肉などに出来る疾患で、痛み、しこりなどの症状を呈します。比較的稀な疾患ですが、診断や部位に応じて適切に治療・リハビリテーションの計画を立てる必要があります。本講座ではこれまでの経験を踏まえ、概要をお話しいたします。	5月22日	相羽久輝(名古屋市立大学大学院医学研究科整形外科学分野　助教)
L-7	7	小児運動器疾患治療の最前線	出生数の低下により小児整形外科疾患に触れる機会が減少しているが、小児整形外科疾患が無くなることはない。本講義では股関節疾患や足部変形、麻痺性疾患に対する最新の小児整形外科的なアプローチを述べる。	5月29日	梅村 彦太郎(名古屋市立大学整形外科　病院助教)
L-8	8	脳深部刺激療法(DBS)の今	脳深部刺激療法は、日本でパーキンソン病、ジストニア、本態性振戦に対して適応があり、当院では20年に渡って治療を継続してきました。どのような治療かお話しします。	6月5日	岡 雄一(名古屋市立大学大学院医学研究科脳神経外科　講師)
L-9	9	神経内科疾患の最前線	リハビリテーションで関わることの多い、神経変性疾患や遺伝性神経疾患などの病態や最新の治療について紹介します。	6月12日	大喜多 賢治(名古屋市立大学医学部附属西部医療センター脳神経内科　准教授)
L-10	10	小児神経筋疾患の最前線	20年前には「治療がない」と言われていた疾患に治療法が出てきたり、遺伝子解析技術の進歩により診断できる疾患が増えてきたり、神経筋疾患の診療は進歩し続けています。神経筋疾患診療の実際、難病である神経筋疾患診療の進歩についてお話しさせていただきます。	6月19日	服部文子(名古屋市立大学医学部附属東部医療センター小児科　准教授)
L-11	11	脳卒中のリハビリテーション最前線	脳卒中のリハビリテーションは、脳科学に基づいた方法が注目されています。従来の方法から、様々な機器を用いた方法へと多様化しています。これらニューロリハビリテーションについて紹介いたします。	6月26日	堀場充哉(名古屋市立大学病院　リハビリテーション部　技師長)
L-12	12	高齢者の歩行障害、転倒リスクのデジタル化	スマートデバイスを使って 歩行障害と転倒リスクを簡便かつ定量的に評価するICT診療を紹介します	7月3日	山田茂樹(名古屋市立大学大学院医学研究科脳神経外科学分野　講師)
L-13	13	摂食嚥下リハビリテーション―経口摂取をあきらめない―	摂食嚥下は栄養を摂取するだけでなく、楽しみでもあり、QOLに直結する重要な機能である。しかし嚥下は誤嚥と隣り合わせであり、リスクとベネフィットのバランスを常に念頭に置く必要がある。本講義がいかに患者さんのニーズに応えていけるかの一助となればと考える。	7月10日	青山公紀(名古屋市立大学医学部附属東部医療センター　摂食嚥下センター長)
L-14	14	前庭リハビリテーション最前線	前庭リハビリテーションは末梢前庭機能障害や平衡機能障害に対してめまいの改善や日常生活動作の改善を目的に行われます。本講義ではめまいのメカニズム、評価方法やトレーニングについてお話させていただきます。	7月17日	浅井勇人(名古屋市立大学病院　リハビリテーション部　理学療法士)
L-15	15	神経疾患の新規歩行リハビリテーション治療	ニューロリハビリテーションとは、神経科学の基礎研究の知識に基づいてそれをヒトに応用したTranslational researchであり、脳機能や脳内ネットワークを非侵襲的に修飾することで運動・認知機能を向上させる試みである。当院で行っている個別化ニューロリハビリの成果を報告する。	7月24日	植木美乃(名古屋市立大学大学院医学研究科リハビリテーション医学分野　主任教授)

S:シミュレーション(実習)形式　L:講義形式　D:双方向議論形式